

R7年度 活動報告

広井沙希

所属：公益財団法人渋川市まちづくり財団

自己紹介

広井 沙希

hiroi saki

出身:新潟県小千谷市

好きなこと:子どもと公園遊び

お寺、神社巡り

群馬の山の景色をみること

任期:R7年5月~

担当分野:まちづくりプロモーター



なぜ渋川市に？

移住の決断

- ・雪が少なく災害に強い、安心できる子育て環境
- ・都市と自然が共存する「ちょうどいい場所」



協力隊に応募したきっかけ

- ・子どもたちが育つこの街をもっと元気にしたい
- ・ダンスを通じて培った「プレーヤー」と「裏方」の経験を、
渋川のイベント運営に活かしたい



私が感じた魅力と課題

渋川市の魅力

- ・「渋川をより良くしたい！」
という
市民や事業所の皆さんの熱い思い

まちづくり財団の魅力

- ・長年蓄積された安定した運営実績
- ・市内各地にある多くの管理施設

渋川市の課題

- ・個々の活動が孤立していて
上手く繋がっていない

まちづくり財団の課題

- ・歴史がある一方で内容が固定化
- ・新しい層(若者・移住者・子育
て世代)との接点がまだ少ない

1年目の目標

次世代に繋がる「賑わい」の土台作り

1.イベント運営のノウハウの取得

- ・財団の安定した運営実務を学ぶ
- ・子育て世代向けのイベントを企画
- ・実施する

2.地域と財団の繋がりを強く

- ・単なる「行事で終わらせらず、準備から当日まで「対話」を重視する
- ・多様な層と「顔の見える関係」を築き、若者や子育て世代の窓口になる



企画イベント①

(8月開催)

大きなキャンバスに夢とふるさと渋川を描こう

企画への思い

- ・家ではできない「非日常」の体験を子どもたちに
- ・「アートに触れる」×「全身で体を動かす」楽しさを

テーマ別の巨大ロール紙をキャンバスにした

参加型アートイベントを市民会館で開催!!

1歳から小学生まで定員40名満員



イベントの様子



家ではできない体験をさせてることができた良かった



大きな紙に描くのが
楽しかった!!



企画イベント②

(9月開催)

しぶかわアニバーサリーフェスタ

～ふるさと渋川の未来を食と音楽と芸術で奏でる～

企画への思い

- ・子どもが楽しめるのはもちろん、大人も一緒にわくわくできる場所を
- ・渋川市合併20周年！「渋川っていいな」とみんなが街に愛着を持てる機会に
- ・イベントを通じて、渋川で活動する人、住む人と深く繋がりたい



イベントの様子

～地域の協力で実現した「食・音楽・芸術」の祭典～

- ・来場者数：延べ2,000名超
- ・運営協力：ユースセンターよはくの学生ボランティア
渋川市地域おこし協力隊
渋川市
- ・地域の協力によるコンテンツ
【食】：市内事業者による飲食出店、地元農家協力による「野菜詰め放題」
【音楽】：地元演奏・ダンス団体、地元出身シンガーほか
【芸術】：地元高校書道部（書道パフォーマンス）、地元画家（作品展示）



イベントの様子



渋川女子高等学校
書道部



ユースセンター
よはくの皆さん
の運営コンテンツ



渋川市出身
シンガーソングライター
さとう麻衣さん

縁日飲食出店
14 店舗



イベントの様子



今までにない会館の活用
をしていて関心した



いろんなことが体験
できて楽しい!!



手応えと課題

～予想を上回る反響と、イベントと日常で見えた課題～

■手応えと発見

- ・魅力的なコンテンツがあれば、施設には多くの人が集まる
- ・アイデア次第で、施設の使い道はさらに広がる

■見えてきた課題

- ・運営面：想定以上の賑わいに対し、当日の受け入れ体制の不足
- ・日常の課題：イベントがない日は利用頻度が低く、人が集まりにくい
⇒「場所はあるがそこに行く理由が足りない」

■解決の方向性

- ・施設をただ貸し出すだけでなく、「行きたくなるイベント」を仕掛け、施設のファンを増やす

今後の展望

～「イベントの場所」から「みんなの居場所」へ～

■日常的な賑わいの創出

- ・イベントがない日でも、ふらっと立ち寄りたくなる仕掛け作り

■情報の「見える化」と発信

- ・「何をやっているのか分からない」を無くす。SNSや掲示板を活用し、施設の「楽しそうな空気」を外へ届ける

■地域との「共創」

- ・イベントで繋がった学生や団体が、自主的に「ここで何かやりたい」と思えるサポート体制の構築

最後に

～感謝を力に、皆さんと一緒に～

この1年の出会いと全てのサポートに感謝！！

『点』から『線』へ、そして『みんなで大きな渦』を。

ご清聴ありがとうございました

